

# 橘病院 整形外科・卒後研修プログラム

柏木 輝行  
花堂 祥治  
吉田 尚紀  
矢野 良英

1. 救急医療
2. 全身管理・術後管理
3. 慢性疾患
4. 基本手技
5. 医療記録
6. 認定医症例の準備
7. 研究会への参加、発表
8. 習得手術

## 【 1. 救急医療 】

### 運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力の習得

1. 骨折にともなう全身的・局所的症候を受傷機転も加味しのべられる。  
上肢、脊椎、下肢
2. 骨折に対する初期・応急固定ができる。
3. 簡単な骨折、脱臼、肘内障の徒手整復ができる。
4. 開放創に対する処置ができる。
5. 多発外傷における臓器損傷とその症候を把握できる。
6. 多発外傷の検査優先順位を判断できる。
  1. 筋、腱、神経、血管損傷の症候をのべられる。
  2. 急性腰痛の病態把握と管理ができる。
  3. 脊髄損傷の症候、程度、分類をのべられる。
  4. 脊椎外傷時の愛護的取り扱いができる。
  5. 神経学的観察による麻痺の高位診断ができる。
  6. 骨・関節感染症の急性期症候をのべられる。
  7. 開放骨折の診断と、重傷度分類をのべられる。
  8. 他科医師との連携した診療ができる。
  9. 患者さん、家族に対する状況、病状、予後の説明ができる。
10. 上司ドクターの治療方法、説明内容、あるいはその病院の方針などを、自己判断でたがえずに協力していくことができる。
11. X線、CT、MRI、RI、造影検査の読影。
12. 介達、直達牽引ができる。
13. 基本的な伝達麻酔ができる。

## 【 2. 全身管理・術後管理 】

### 外傷症例、慢性疾患術前症例の術前、術後管理の習得

1. 救急搬送症例のバイタルサイン、意識レベルを把握、評価できる。
2. 術前の全身状態のチェック、必要な検査が指示できる。
3. 麻酔管理に関する必要なデータを収集し麻酔科医と症例に関するディスカッションができる。
4. 手術に応じた予想出血量を計算し、自己血、他家血輸血の必要量を準備できる。
5. 術前ムンテラに必要な説明項目を列挙できる。
6. 手術前後に必要な薬剤の指示、管理ができる。
7. 術後のモニタリング、血圧、脈拍、呼吸数、出血量、尿量の評価ができる。
8. 術後の in, out のバランスを管理できる。
9. 術後の疼痛コントロールができる。
10. 外傷の重傷度に応じた疼痛コントロールができる。
11. 骨折部位、程度、データをみて出血量を予測できる。

## 【 3. 慢性疾患 】

### 整形外科に必要な慢性疾患の重要性、特殊性の理解、習得

1. 変性疾患の自然経過、病態を理解している。
2. 慢性関節リウマチ、変形性関節症、変形性脊椎症の X線、MR I が読影できる。
3. 慢性関節リウマチ、変形性関節症、変形性脊椎症の治療方針が理解できる。
4. 硬膜外ブロックが行うことができる。
5. 関節造影、脊髄造影を行うことができる。
6. 変性疾患に対する薬物療法、理学療法の処方ができる。
7. 後療法の重要性が理解できている。
8. 杖、コルセット、装具の基本的な必要性が理解できている。
9. 理学療法士とのコミュニケーションがとれ症例に関するディスカッションができる。

## 【 4. 基本手技 】

### 整形外科疾患の診断と安全な治療を行うための基本手技の習得

1. 主な身体計測ができる（MMT、ROM、四肢長、周囲径）
2. 身体部位の正式名称がいえる。
3. 適切なレ線指示ができる。
4. 関節穿刺、関節注入、局所注射の適応を知り、施行できる。
5. 外傷についての診断、治療ができる。
  - 四肢の骨折、脱臼
  - 小児の骨折、脱臼
  - 靭帯損傷（膝、足関節）
  - 捻挫
  - 腱、神経、血管損傷
  - 開放性骨折
  - 四肢切断
6. 整形外科の清潔操作が理解できている。
7. 手術適応の重要性が理解できる。
8. 種々の手術における安静期間、後療法の違いを理解できる。
9. 整形外科手術の手洗いができる。
10. 整形外科手術のガウンテクニックができる。
11. 整形外科手術の体位がとれ、手術部位の消毒、シーツ操作が正確にできる。
12. 術後の肢位保持をとれる。
13. 腓骨神経麻痺、褥創、循環障害、ギプス障害の管理、予防ができる。

## 【 5. 医療記録 】

### 医療記録への正確な記載能力の習得

1. 整形外科疾患についての正確な病歴記載  
主訴、現病歴、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴、手術歴、アレルギー、内服歴、治療歴
2. 理学所見の記載  
MMT、ROM、反射、知覚、脚長、筋萎縮、変形、ADL、歩容
3. 検査結果の記載  
画像、血液生化学、尿、関節液、病理組織
4. 症状、経過の記載
5. インフォームドコンセントの記載
6. 紹介状、返書の記載
7. リハビリテーション、装具、義肢の処方、記録
8. 診断書の種類と内容が理解できる。
9. 保険診療の理解—— 「医師のための保険診療入門」 社会保険診療研究所  
勤務はじめに目を通す

## 【 6. 認定医症例の準備 】

### 専門医資格試験のための症例準備

認定症例を選択し、画像やデータをまとめておく。  
まとめながらさらに必要な所見、検査を行っていく。

## 【 7. 研究会への参加、発表 】

懇話会、研究会、三水会での発表



## 研修評価表

1. 基本的医学知識
2. 病歴聴取とカルテ記載
3. 基本手技と救急処置
4. 鑑別診断と論理的思考
5. レポート提出状況
6. 積極的な診療態度・責任感
7. 身だしなみ（服装、清潔さなど）
8. 勤務態度（遅刻など）
9. 患者対応（言葉使いなど）
10. 医療スタッフとの協調性

## 研修後の病院に対する評価

1. 研修内容
2. 病院設備
3. 職員の対応
4. その他

・整形外科医として、特に勤務医の役割を理解し、勤務医のやりがい、生きがいを身をもって示していきます。臨床の面白さ、厳しさとともに研究の必要性、意義について指導いたします。

（安易に開業することのないように心がけて指導します。）

- ・基本的な外傷ができるレベルには1年、  
外傷手術が後輩の指導可能になるレベルには2年  
TKAが可能になるレベルには3年

それぞれの目標、希望に合わせた研修を計画いたしますが、それに応じた人事の期間を決めてお願いできれば、半年ごとに医局長の電話に恐れず赴任期間を全うできると思いますのでよろしく願いいたします。